

## 「びわほなみ」播種作業時の栽培ポイント

### 1 “適期”に播種しましょう！

「びわほなみ」は秋播性程度が低く、気温が高いと生育が早まるため、適期に播種することが重要です。早期播種は、生育旺盛となり黒節病などの病害につながるだけでなく、出穂が早まり春先の凍霜害による収量や品質の低下につながります。右表を参考に適期に播種ができるようほ場準備および播種準備を行いましょう。

表 地域ごとの播種適期

地域	播種適期
湖辺・平坦	11月10日～20日
中山間	11月5日～15日

### <播種時の注意点>

収量確保には苗立ち数の確保が重要です。適切な播種深度で適量を播種することがポイントとなります。

今一度、下記のポイントを再確認し、播種作業を実施しましょう。

#### ○播種量：8～10kg/10a

- ・播種が遅れた場合は、苗立ち数を確保するため播種量を増やす。
- ・10日遅れるごとに1kg/10a追加が目安。

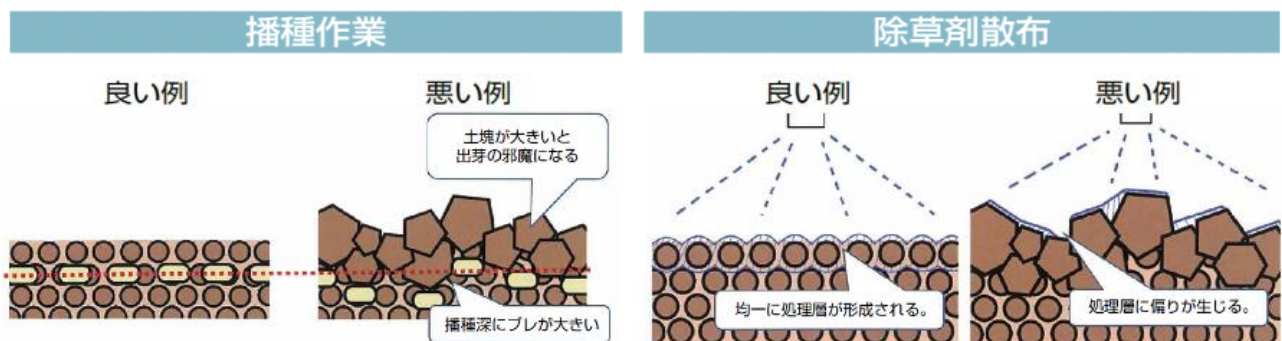
#### ○播種深度：2～3cm

- ・深すぎると、苗立ち不足や生育期の分けつが抑制され減収します。

#### ○条間：20～25cm

- ・播種時の条間を出来るだけ狭くして、麦でほ場を覆うことで、雑草対策になります。

耕起は丁寧に行うことで、発芽率向上や除草剤効果アップにつながります。



## 2 播種後は、除草剤の体系処理を実施しましょう！

近年、収穫期に雑草が繁茂したほ場（写真）が多数見られます。耕起や播種後の土壌処理剤だけでは、雑草の発生を十分に抑えられない場合があります、雑草が繁茂すると収量・品質の低下に繋がります。

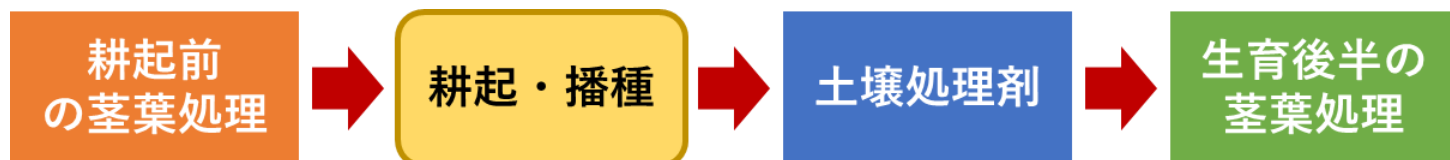


ハルタデが繁茂したほ場

土壌処理剤だけでなく、耕起前には非選択性の茎葉処理剤の散布により雑草の発生を抑制しましょう。

また、生育後半にはほ場に発生している草種に応じて適期に茎葉処理剤を散布し、収量や品質、収穫調製作業に与える影響を最小限に抑え、良質な小麦栽培に努めましょう。

### 【除草剤の体系処理】



## 3 再度、排水対策ができているか確認しましょう！

麦の出芽向上や、土壌処理剤、肥料の効果を高めるためには、排水対策が重要です。例年、排水対策が不十分なほ場で生育初期に降雨に当たり、ほ場に水が滞水することで出芽不良や苗立ち不良が生じているほ場が見受けられます。播種前には必ず排水対策ができているか確認しましょう。また、播種後も定期的に溝を点検し、崩れた箇所は溝さらえを行い、ほ場に水が滞水しないよう排水口までしっかりとつながるようにし、排水対策に努めましょう。



つなぎ目はしっかりつなぐ！